



何事もウマくいく門司 — つながりがまちを動かす一年に

新年あけましておめでとうございます。

門司に暮らす皆さま、働く皆さま、そしてこのまちに想いを寄せるすべての方々に、心より新年のご挨拶を申し上げます。

港町・門司は、かつて人と物、文化と時代が行き交う「玄関口」として発展してきました。多くの人がこの地を訪れ、出会い、別れ、そして次の場所へと歩みを進めていった。門司は常に「動き」の中にあるまちでした。

本年は午年。馬は、人の想いを運び、距離を越え、時代を前へと進めてきた存在です。その姿は、前に進む力、挑戦する勇氣、そして人と人を結ぶ「つながり」の象徴とされています。

今の門司を見渡すと、空き店舗の増加、担い手不足、世代間の分断。変わりゆく社会の中で、新たな選択を迫られています。しかし同時に、変わらないものもあります。顔を合わせれば自然と交わされる挨拶。商店街で交わされる何気ない会話。「このまちを何とかしたい」「面白くしたい」という、静かだが確かな想い。

午年は、物事が停滞から抜け出し、流れが生まれる年とも言われます。

大きな事業や派手な取り組みだけが、まちを変えるわけではありません。誰かが声をかけること。集まって話す場をつくること。小さな活動が続けること。そうした一歩一歩が積み重なった先に、まちの変化は生まれるのではないのでしょうか。

馬は、独りで走る存在ではありません。人と歩調を合わせ、時には立ち止まり、時には重荷を背負いながら進みます。門司のこれからもまた、誰か一人が引っ張るのではなく、多くの人がそれぞれの立場で関わり、支え合いながら進んでいくのだと、私たちは考えています。この新聞は、そうした門司の「今」を伝え、「これから」を考えるための場として生まれました。地域で起きている出来事、挑戦する人の声、何気ない日常の中にある価値。それらを届け、つなぎ、次の行動へとつなげていく。私たちはこの新聞を、門司の未来へ向かう小さな一歩にしたいと願っています。本年が、門司にとって新しい縁が生まれ、人の想いが行動となり、その行動がまちの力へと変わっていく一年となりますように。共に前を向き、歩みを止めず、進んでいきましょう。本年もどうぞよろしくお願いいたします。

令和八年元日

創門会

この新聞に関する
ご意見・ご感想は
創門会迄

創門新聞

2026年1月1日発行

1月号

創門新聞 共感者サポーター 大募集！

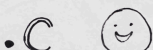
共感サポーター



MHCF
Pioneering New Medical Areas



「ハッピーエンジン」チャンス



柳町調剤薬局
SINCE 1985

little
bike rental



office
AURA

馬は、人の想いを運び、
距離を越え、時代を前へと進めてきた存在。
その姿は、前に進む力、挑戦する勇氣、
そして人と人を結ぶ「つながり」の象徴。



創門会にとってそんな千年になるよう、
初心を忘れず、小さなことから
一生懸命に盛り上げて行きます！！